



# モユク★カムイ 93

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。April 2017

## ASAHIYAMA ZOO NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース

ハシブトガラス

*Corvus macrorhynchos*



### もくじ

ぼくは動物大使 その54 厄介者?いや、 自然界の掃除屋さん カラス.....	1.2
特集 北海道産動物舎の 楽しみ方.....	3.4
今年は旭山動物園開園50周年!! いろいろイベント目白押し!準備も着々??...	5
飼育研究レポート オランウータンにおける採血のための ハズバンドリートレーニング.....	6
主なできごと 雪あかり動物園 報告 編集後記・飼育動物数.....	7

## ハシブトガラス

Corvus macrorhynchos  
スズメ目 カラス科

ハシブトガラスは、英名を“ジャングルクロー”といい、もともと森林の中で暮らしているカラスです。現在では、都会(コンクリートジャングル)に適応し、私たちのすぐ近くで暮らしています。

食性は雑食性で、さまざまなものを食べます。特に、脂質を含むものが好きで、過去に幼稚園にある石けんや墓地のろうそくが盗まれる事件の犯人だったことがあります。

# ぼくは動物大使

その54

## 厄介者?いや、自然界の掃除屋さん カラス

## ハシボソガラス

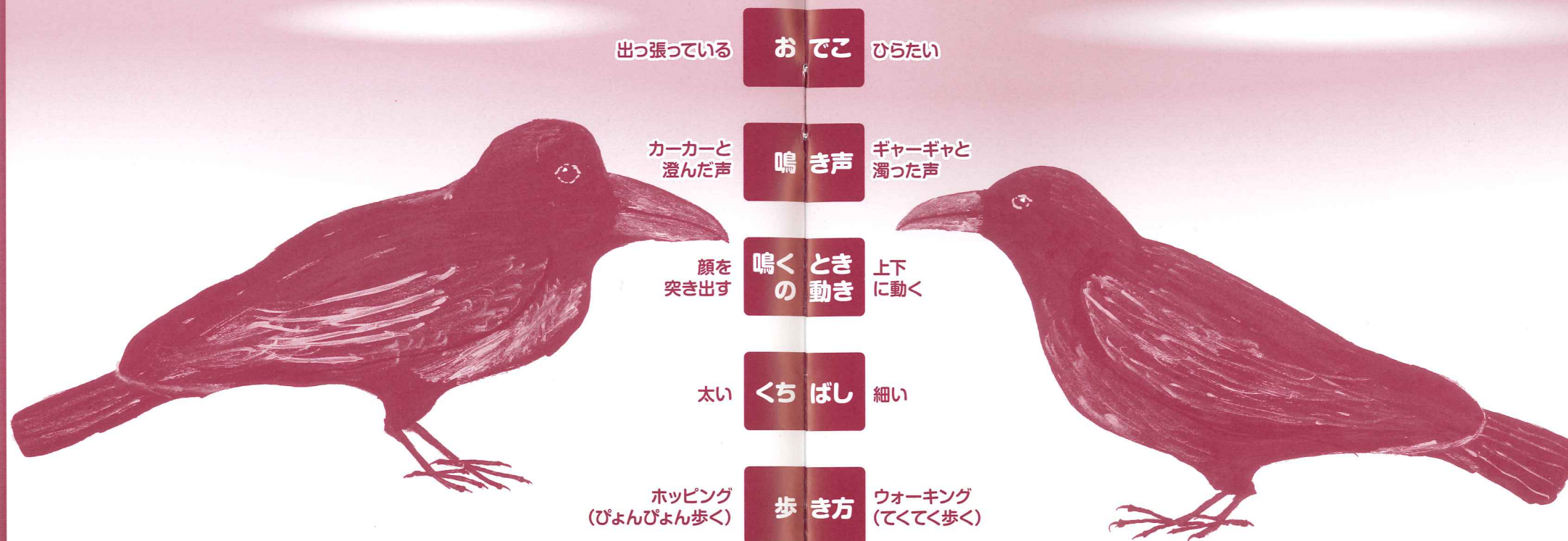
Corvus corone  
スズメ目 カラス科

ハシボソガラスは、ハシブトガラスに比べ、都会より田んぼや畑のある田舎に多く生息しています。

雑食性で、地上を歩きながらミミズや植物の種子などを探して食べます。

ハシボソガラスで有名なのが、くるみ割りです。道路にクルミを置き、自動車に踏ませて中身を食べるという行動があります。人間を賢く利用して暮らしている例です。

### 身近な2種類の カラスを比較



### 動物園で、なぜカラス?

カラスをカラスとして飼育・展示しているのは、日本全国の動物園で当園ぐらいかもしれません。

当園で飼育しているカラスは、旭川市内で有害鳥獣駆除として捕獲され、殺処分される運命でした。動物園でカラスと人間が共存するための“架け橋”になってもらうため、捕獲された個体を譲り受け、北海道産動物舎で飼育・展示をしています。

### カラスのことが嫌い?

カラスのことが嫌いな理由に、「ゴミを荒らされた」、「攻撃された」、「黒くて気持ち悪い」などがあります。彼らのことを知れば、考えが変わるかもしれません。

ゴミを荒らすのは食べ物を獲得するため。ゴミ出しのルールを守らないむき出しのゴミを、カラスがいじってしまいます。「ゴミを荒らされた」問題の原因は、人間のだらしなさにあるのです。ゴミ出しのルールをきちんと守ればそのようなことは起こりません。

人がカラスに攻撃されるのは、繁殖期のみ。カラスは巣に人間が近づいてきたらまず、これ以上近づくなと必ず警告を行います。人がそれを無視することで、卵やヒナが危ないとやむなく攻撃行動に出るのです。「攻撃行動」は、親鳥として必死に卵やヒナを守っている行動なのです。

見た目に関しては難しいところですが、体もよくみれば、真っ黒ではなく、光の加減で青っぽい瑠璃色をしています。目もよくみるとつぶらで、愛嬌のある顔ではありませんか?

### 自然界での役割

カラスは自然界でスカベンジャー(腐肉食者)という役割を担っています。生き物は必ず死にます。その死体を食べて、うんちとして分解をするという仕事です。

もし、カラスのようなスカベンジャーがいなければ、自然の中には生き物の死体であふれてしまいます。車に轢かれたカエルの死体やアスファルトの上でひからびたミミズの死体は、カラスたちがきれいに食べてくれているのです。

### 人とカラスの共存

カラスの多い東京都では、毎年熱心に駆除を行い、多い年に1万5千羽を超えるカラスを駆除してきました。その効果からか、近年は個体数の減少、苦情件数の減少が報告されています。はたして、それは共存なのでしょうか?

カラスの個体数が増加した要因のひとつに、食物事情があります。人間が出した大量の生ゴミにより、順調に繁殖し、個体数はどんどん増えていきました。人が出す生ゴミを手に入れられなければ、その環境で生きていけるだけの個体数に収まるはずですが、自然界では特定の種が爆発的に増えることはありません。必ず他の要因(食べ物不足や生息場所の不足など)により適正数に収まります。人の生活の変化、カラスの適応によりそのバランスが崩れてしまったのです。増えたら殺すのではなく、増えないように人間が考え、行動する。それこそ本当の共存なのではないでしょうか?

# 北海道産動物舎の楽しみ方

オープンから4年が経過した北海道産動物舎。それまでは園内のさまざまな場所で、昔ながらの小さなケージや檻で飼育していた地元・北海道にすむ動物たちを一堂に集めることで、北海道の自然の中を歩きながら動物を探し、観察する感覚で見られるようになりました。動物たちも施設に慣れ、様々な行動や四季による変化、繁殖の様子などが観察できるようになるなど、円熟期を迎えた北海道産動物舎の魅力をご紹介します！



## ウサギ&リス

ケージ内の上の空間をエゾリス、下の空間をエゾキウサギが利用することで見事な共生展示に。空間を活発に動きまわるエゾリスと、夏と冬で毛色が変わり、慎重で周りの景色に溶け込むようにじっとしているエゾキウサギがとても対照的です。エゾリスがエゾキウサギのエサを横取りすることも。



## タヌキ&アライグマ

在来種のエゾタヌキと外来種であるアライグマの比較展示。タヌキのところには以前と同様に巣穴の中をのぞくことができる展示があり、アライグマのところには何やら怪しい窓が…。

似ているようで似ていない身体や動きなどの特徴をじっくりと見比べることができます。



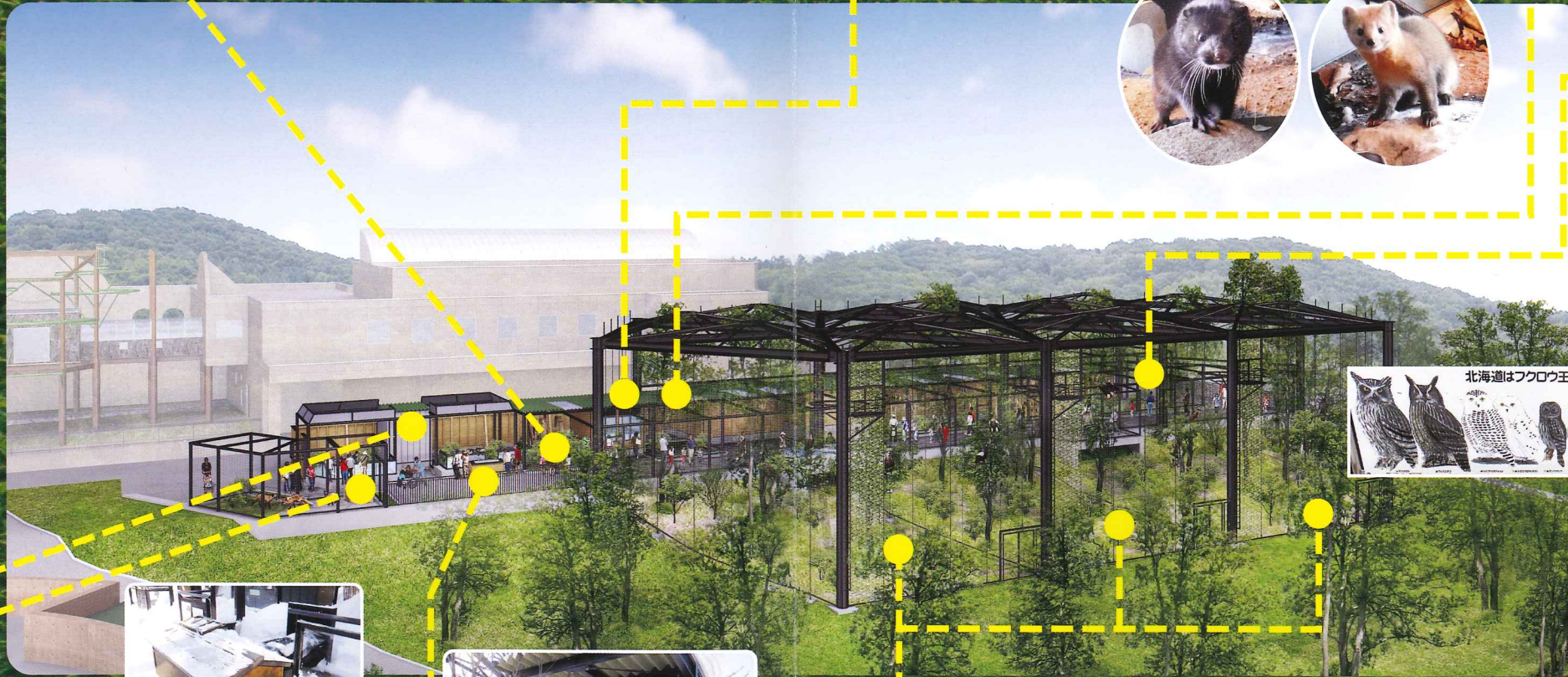
## キタキツネ

北海道のシンボリック的存在でもあるキタキツネ。ケージ内には丸太が組んであるため、ただ地面を歩くだけでなく、ジャンプしたり不安定な丸太の上を移動する様子など、運動能力の高さを実感できます。



## カラス

もっとも身近な動物のひとつでもあるカラス。ハシブトガラスとハシボソガラスが展示され、両種の違いが観察でき、カラスの知能の高さを観察できるよう工夫してエサを与えています。見慣れていると侮るなかれ！



## こんな展示もあるよ！



楽しく学べるわくわくパズルとほねほねパネル

## テン&ミンク

こちらも在来種のエゾクロテンと外来種のアメリカミンクの比較展示。両種の違いがわかりやすいように同じケージの規格ですが、中のレイアウトの違いにより生息環境の違いを再現しています。



## 小鳥ケージ

アカゲラやキジバト、スズメ、オシドリなどの鳥類が展示されています。ケージ内には小さな池が設置され、そこで水浴びをする様子や、アカゲラが細いチューブの中の虫を食べる様子が観察できます。



## フクロウ類

北海道で見られるフクロウ類10種のうち、6種が展示されています(シマフクロウとシロフクロウは別の場所で展示しています)。昆虫やネズミなど食べるものによる身体の違いなどを比較して観察しやすくなっています。渡りをする種は冬期展示していません。



## 春はいっそう賑やかに

春になると多くの動物たちが出産・子育てのシーズンを迎えます。北海道産動物舎でもたくさんのヒナや子どもを観察することができるでしょう。そんな姿を観察しながら北海道の自然の豊かさ雄大さを感じてみてください！



## 大型猛禽類

オオワシ、オジロワシ、クマタカの3種を展示。もともとそこに生えていた自然木を囲うようにケージを設計したことで、自然に溶け込みまさにバードウォッチングをしているかのように観察することができます。また、観察通路の上も彼らの利用できる空間になっているため、頭上を羽ばたく様子は圧巻です！



# 今年も旭山動物園50周年!!

いろいろなイベント目白押し!準備も着々??

2017年7月1日に旭山動物園は開園50周年を迎えます。半世紀という長い間、多くの市民・来園者の皆様に支えられて、今年を迎えることが出来ました。そんな2017年を盛り上げるために、1年を通してさまざまな企画が予定されています。この号の編集作業時点では具体的に出せない部分もありますが、一部ですが一足早くお知らせしたいと思います。

## ロゴマーク

50周年記念事業ロゴマークは一足早く2017年1月から使用が始まっています。さまざまなグッズや印刷物に使ってもらい、1年間活躍する予定です。



## キャンペーン

いろいろな企業とのキャンペーン企画も進んでいます。具体的には言えませんが、皆さん大好きな泡の出るあの飲み物とのコラボも?!

## 1年を通してのイベント

開園記念日の7月1日はもちろんのこと、1年を通してさまざまなイベント、企画展、講演会などを予定しています。市民の皆様が旭山の歴史を振り返り、より動物園のことを知ってもらえるような企画を計画中ですよ!

## 刊行物

50周年記念誌と旭山動物園動物図録の改訂版を発行する予定で準備を進めています。



動物図録の改訂は動物園スタッフが行っています。10年前の40周年の時に発行された図録なので、新しい動物舎やいなくなってしまう動物の情報などを更新する予定でした。ですが、2016年の秋から始まった改訂作業が進むうちに担当スタッフの想いが盛り上がり、当初の予想以上の内容変更となりそうです。現在編集は佳境を迎え、4月の開園日の発行を目指しています!みなさんぜひ買って下さいね!

さまざまなイベント等が予定されている2017年度、多くの市民・来園者の皆様にとって楽しい1年になればと思います。また、今までの50年間を振り返るだけでなく、今後の50年を思い描けてもらえる機会になれば幸いです。

# 飼育研究レポート

オランウータンにおける採血のためのハズバンドリートレーニング

## 何のためのトレーニング

従来オランウータンの採血は麻酔下で行うことが一般的でしたが、麻酔は身体的、及び精神的ストレスが大きく、頻繁に行うことは困難とされてきました。

そこで当園では定期的な健康診断を目的とし、オランウータンが無麻酔下で自発的に採血に応じてくれるようにトレーニングを実施しました。このように診察や健康管理のためのトレーニングをハズバンドリートレーニング(受診動作訓練)といいます。

## 採血するには

無麻酔下での採血といっても、そーっと近づいて、いきなり動物に注射針を刺してもうまくいくわけがありません。動物は怒ったり警戒をして二度と採血などさせてくれないでしょう。また、採血は適当に針を刺して血が採れるような簡単なものではありません。駆血して静脈を確保し、適切な角度、力加減で針を刺さなければなりません。もちろん腕が動いていると採血できないので動物には一定時間じっと止まらせてもらわなければなりません。

## 強化の原理

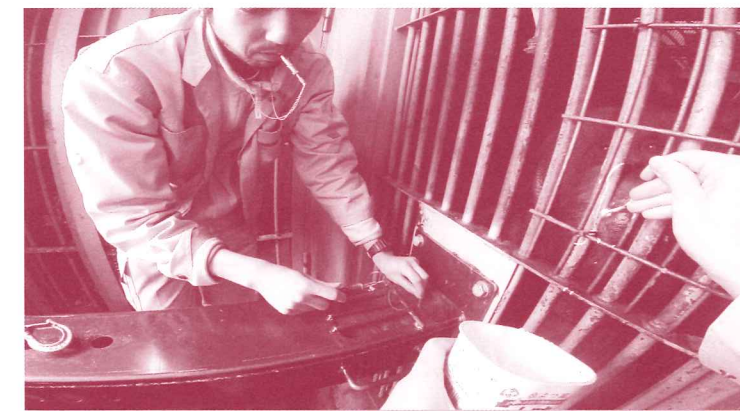
ではどのように動物たちから採血するかというと、強化子という言葉でご褒美をうまく使っていきます。合図を出し、こちらが求める行動ができればすぐに強化子(ご褒美)を与えます。それを繰り返して、その行動の頻度を高めていきます。(これを強化と言います。)これを徐々に強化子を与える条件を変え、行動形成していくと正しい採血姿勢がとれるようになります。

## トレーニングは一日にしてならず

トレーニングは私と獣医の2名で行います。私は動物に合図を出したり、強化子を与える役で、獣医は採血側の腕に刺激を与えたり、採血を担当します。

先ほどの行動形成は主に私の担当です。受診姿勢がとれるようになってからは獣医の出番です。私が採血側の腕を伸ばした状態を維持させ、獣医が腕に刺激を与えます。もちろんいきなり針を刺してはいけません。トレーニングは一日にしてならず。焦りは禁物です。最初は腕を手で撫でることから始めます。次にペシペシ叩いたり、指でつついたりします。次に爪楊枝でチクチクつつく→注射針を痛みの少ない筋肉部分へ刺す→静脈へ刺す、の順で段階的に強化をして最後に採血という流れです。

文章にすると簡単そうなのですが、実際は刺激を嫌がったり、集中できず動いてしまったりと、なかなか思うように進みません。方法を変えたり器具を加工したりと試行錯誤し、個体に合った手法を確立していきます。




採血をする獣医師と強化する私

## 今後の展望

雌のリアンは22回目、雄のジャックは25回目のトレーニングで初採血に成功しました。両個体とも今後も定期採血を継続する予定です。また、今後は今回の手法を他の健康診断へ応用し、総合的な健康管理に繋がりたいと考えています。(オランウータン・トナカイ担当:佐橋 智弘)

## 主なできごと

- 12月 5日 シンリンオオカミ「カント」死亡  
 9日 ペンギン館トボガン広場開設  
 10日 ペンギンの散歩開始  
 絵本の読み聞かせ  
 14日 フンボルトペンギン2羽  
 ノシャップ寒流水族館へ移動  
 17日 アビシニア  
 コロブス出産
- 
- 17・18日 旭川大学短期大学部クリスマス  
 イベント開催  
 26日 飼育勉強会  
 1月 8日 カピバラ「泉水」死亡  
 10日 ワピチ「サチ」死亡

- 1月14日 絵本の読み聞かせ  
 16日 飼育勉強会  
 18日 開園50周年記念ロゴマークお披露目  
 27日 あざらし館「流水ひろば」完成  
 2月7日～12日 雪あかりの動物園を開催  
 11日 絵本の読み聞かせ  
 19日 雪の中の撮影教室開催  
 旭山動物園くらぶ主催環境保全フォーラム  
 「熊と踊れ、鯨(わに)と歌え!」開催  
 20日 飼育勉強会  
 26日 自然観察会  
 「雪の中の不思議 大捜索!」開催



開園50周年記念ロゴマーク

## 雪あかりの動物園 報告

今年で5回目となる「雪あかりの動物園」を2月7日から12日まで開催しました。天気にも恵まれ、旭川らしい寒さの中での開催でした。

今年は、例年行っている雪あかりの動物ガイド・キャンドル制作体験・かまくら・雪の滑り台。そして、新たな試み「キーパーズ・カフェ」を行いました。飼育係がスライドを用いながら、普段聞けない動物の話からマニアックな話まで様々ですが、温かい飲み物を飲みながら聞いていただき、最後に質問コーナーを設けるという企画でした。

初めてのことでしたが、動物のことを伝える新しい場面ができたことと、何よりたくさんの方々から話を聞いてもらったことがとてもうれしかったです。

来年も今年以上に盛り上げていきたいと思いますので、極寒の中での動物のたくましさ、すばらしさを体感しにぜひお越しください。



キーパーズ・カフェの様子



夜のシマフクロウ

## 編集後記

年が明けた2017年、旭山動物園開園50周年の年がいよいよ始まりました。夏期開園(4月29日)からは、50周年記念事業が本格的に始まります。

50年間支えてくれた動物たち、支えてくださった方々への恩返し、そしてこれからの50年へ向けての出発…。色々な思いを持っての50周年を迎えることになると思います。

職員総動員でたくさんのイベントを企画をしている最中ですが、みなさんと一緒に50周年を盛り上げていければと思っております。

新たな旭山動物園の出発の年をどうかよろしく願いいたします。

(佐賀)

## モユク・カムイ No.93 平成29年4月1日

- 発行所/旭川市旭山動物園  
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行/坂東 元 ●表紙絵:中田 真一
- 編集/丸一喜・高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・中村 亮平・佐賀 真一
- 印刷/榎須田製版: 〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

## 飼育動物数

平成29年2月末現在

- 哺乳類 44種・281点
- 鳥類 55種・314点
- は虫類 5種・17点
- 合計 104種・612点